

2022年9月定例会の特徴、反省点ならびに議会改革課題について

2022年10月13日（木）

提出委員：会派・友和（奴間健司）

1 定例会の特徴

- ①2021年度一般会計等決算認定審査と2022年度一般会計等補正予算審査が大きな議題だった。いずれも認定、可決したが指摘すべき事項もあった。議会として提言するには至らなかった。自由討議の実施や議会としての提言取りまとめは今後の課題である。なお、文書回答の形式が変更されたが改良も必要と思われる。
- ②一般質問の答弁の中で、市長は次期市長選に出馬することを明らかにした。
- ③タブレットを初めて試験的に利用した。
- ④内平議員の辞職を認めた。議員定数19人に対し欠員1となった。

2 定例会の反省点について

①本会議

ア) 本会議（1日目・8月30日）

- a. 議長は冒頭に、タブレットを試験的に利用すること、執行部にも持ち込みを許可していることを述べた。
- b. 市長は決算並びに補正予算の提案理由の説明を口頭で行った。毎回のことだが文書で提示すべきと考える。審査する際の論点が明確になると思われる。
- c. 市長はiPadを使って提案理由の説明を行った。

イ) 本会議（2日目、9月1日）欠席は村松議員、内平議員（8月31日に議員辞職届提出）

a. 大綱質疑は2人。

内場議員が報告第6号（債権放棄）と第61号議案（電気料金支払遅延）

奴間が第46号議案（コスモス館条例改正）、第48号議案（一般会計補正予算）、第54号議案（一般会計決算）

今回は、大綱質疑の定義を定めてから初めての大綱質疑だった。答弁は市長であったり部長であったりした。奴間は「市長の見解を求めるもの」という意義を最大限意識して質疑したが、第3者の意見もいただきたい。

b. 補正予算審査特別委員会（吉住委員長、紙谷副委員長）、決算審査特別委員（井之上委員長・内場副委員長）

ウ) 一般質問（9月8日・5人、9日4人、12日2人、計11人）

9日の欠席は渡議員、12日の欠席は松島議員

9日の本会議では一般質問の前に内平議員の議員辞職を議題とし、辞職を認めた。

- a. 古賀、内場、井之上、紙谷、田中、吉住、伊東、竹下、奴間、平木、村松の11議員が一般質問を行った。
- b. 8日に市長が出馬表明を行った。
- c. 答弁の中で、特筆すべきことは以下の点。

18歳までの医療費無料化、夜間・休日の小児医療、Wi-Fi環境の整備、不登校の兆候、

「不登校は社会の問題」(教育長答弁)、国葬対応、西鉄跡地の遊歩道をメインとするパース図の存在、「過去の行政、政治の怠慢」発言、子どもの健康状態は良好・改善方向、市民の健康状態は横ばい、子ども健診を考えるしかるべきときではない、帯状疱疹ワクチン、介護ヘルパーの養成、2021年度に人口社会減ショック(7月5日の庁議)、人口6万人規模の維持、雇用の確保と「住宅の確保策」(古賀駅東口以外での検討に入った・市長答弁)、20代から40代の人口は2018年度+210人、2019年度+90人、2020年度△70人、2021年度△270人。

d. 一般質問は議員主導で中長期的な視点の政策提言であることを考えると市長との論戦がベースとなることが望ましい。主に課長が答弁する質問は所管事務調査や窓口でのヒアリング等のレベルと言えるのではないか。

e. 書画カメラを活用する場合はわかりやすく、見やすいものに工夫する必要があるケースがあった。事前に議員連絡会で呼びかけたがまだ改善が必要と思う。

エ) 最終日(9月26日)

a. 討論を行った。

第45号議案(育休拡充) 賛成討論: 田中

第46号議案(コスモス館条例、ひびきの郷廃止) 賛成討論: 伊東・吉住

第48号議案(一般会計補正) 反対討論: 内場 賛成討論: 田中・奴間

第54号議案(一般会計決算) 賛成討論: 伊東・吉住・奴間・清原 反対討論: 内場

第56号議案(国保特会決算) 反対討論: 内場 賛成: 吉住

第58号議案(介護特会決算) 反対討論: 内場 賛成: 吉住

第59号議案(水道企業会計決算) 反対討論: 内場 賛成: 吉住

4年請願1(JR古賀駅東口) 賛成討論: 森本

b. 54号議案の討論の途中で中断する場面があった。自由討議の動議を諮ろうとした直前に奴間が休憩を求め議運委員長として議長と協議した。会議規則で定めた「自由討議は討論に入る前に行うもの」を確認して再開した。清原議員は討論として続行した。討論とは賛成か反対かをめぐる論戦なので、討論の中で反論することはありうる。

c. 奴間は読み原稿をタブレットに保存して使った。

②常任委員会(市民9月1日、総務9月5日、文教9月6日)

ア) 市民

a. 請願、46号議案(コスモス館)、47号議案(地区計画、道路構造基準)

b. 所管事務報告 令和4年第1回上下水道事業経営等審議会の浄水場に関する答申

イ) 総務

a. 44号議案(選挙公費)、45号議案(育児休業拡充)

b. 所管事務報告 新型コロナウイルス感染症対策本部会議、指定管理者評価、職員採用試験

ウ) 文教

a. 付託議案無し

b. 所管事務報告 令和3年度古賀市教育委員会の点検及び評価報告書について、学校給食への異物混入、米多比児童館・教育支援センター、新型コロナワクチン接種の状況につ

いて

エ) 会期中の常任委員会における所管事務報告と質疑については最終日の本会議で報告すべきと考える。

③補正予算審査特別委員会（9月7日）

ア) 一般会計補正予算に対し平木、伊東、田中、奴間、内場の5議員が質疑した。

イ) 物価高騰に対する生活支援、新型コロナ対応地方創生臨時交付金の活用について質疑が行われた。特に高齢者に対するコメ2キロ、ごみ袋10枚の配布等について質疑があった。就学援助費の対象拡大は有意義だと認められる。

ウ) 移住体験やコスモス館におけるレストランについては今後の取組を注視すべき。

エ) 取手市における補正予算説明書を提示したが、古賀市でも説明の在り方を改善すべき。補正予算の目的、財源等についてきちんと文書で示すことを求めた。

④決算審査特別委員会（9月13日、14日、16日、20日：市長質疑、21日：討論、採決）

13日は松島議員が欠席、21日は清原議員が欠席

ア) 2021年度決算の特徴、つまり主要な論点は、新型コロナ対応、第4次総合振興計画の最終年度、第5次総合計画策定、公共施設等総合管理計画第1期アクションプラン策定、薬王寺インキュベーション、地域包括支援センターとコミュニティソーシャルワーカー配置等である。奴間はこの論点について質疑を深めることを意識したが、全体としてこの論点にこだわった質疑は少なかった。今後の課題と言える。

イ) 清掃工場の将来計画について奴間が市長質疑を行った。8月3日の庁議での市長発言が契機になった。2032年度以降の清掃工場の在り方をめぐる議論の第一歩となったと思う。

ウ) 第4次総合振興計画後期基本計画の検証である政策マネジメントシート（427ページ）が全面的に提出されたことは大きな成果である。議会としてその内容をしっかり踏まえて質疑することが求められた。今後の所管事務調査にとっても役に立つ文書である。

エ) 質疑の件数やその内容については検証する必要があると思われる。会派によってかなりの差が認められる。

3 議会として考察が必要と思われる課題

①各議案に対する討論について

ア) 賛成、反対の理由について（明確か、不十分だから反対は成り立つか）

イ) 執行部に対する指摘事項について（本来は議会としての提言取りまとめが必要）

ウ) 討論は1回だけで良いのか（議員間の論戦は必要ではないか）

エ) 質疑もなく討論できるのか（疑義を解明する努力をしたのか）

②決算審査における質疑の内容について

ア) 決算の主要な特徴、論点の把握について（決算のポイントを執行部は文書で示すべきでは）

イ) 決算質疑と所管事務調査の違い（決算を認定すべきかどうかを問いただくこと）

③一般質問と所管事務調査の関係について

ア) 一般質問の目的と意義について

イ) 所属する委員会で所管事務調査として取り上げるべきことはないか（所属する常任委員会で調査することが前提ではないか）

ウ) 常任委員会での所管事務調査を踏まえ提言を取りまとめるべきことがないか（この提言がなされていないため一般質問で取り上げるということになっていないか）

4 議会改革の取組みについて

①委員会会議録を議会ホームページにアップすること

②常任委員会のインターネット中継・録画配信を行うこと

③常任委員会の閉会中の所管事務調査において、自由討議を行い、委員会の意志として指摘・提言を行うこと

④予算・決算の審査方法を改善すること